

ユーロ圏金融政策（2024年1月）

3会合連続で政策金利据え置き、データ次第との方針は不変

2024年1月26日

利下げの議論は時期尚早としつつも、データの進展を多々指摘

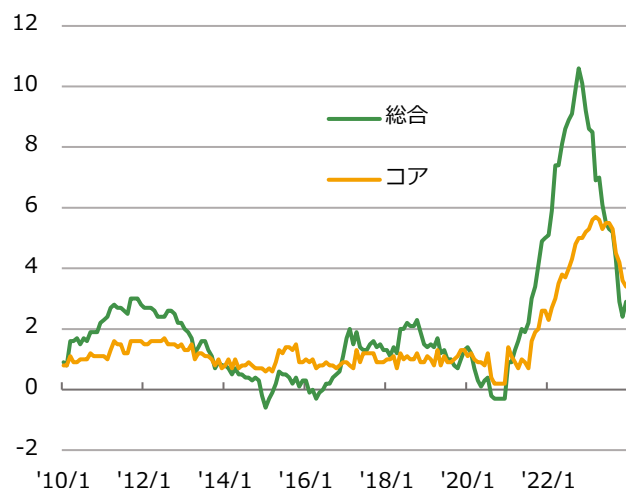
ECB（欧州中央銀行）は1月25日（現地）の理事会で、市場予想通り3会合連続で政策金利の据え置きを決定しました。中銀預金金利（銀行がECBに所要準備を上回って資金を預け入れる際の金利）は4%、主要リファイナンス（1週間の資金供給オペ）金利は4.5%です。

声明文の金融政策に関する記述に実質的な変化はありません。「ECBの政策金利は、十分に長い期間維持されれば、インフレ目標の達成に多大な貢献をする水準にある」、「政策金利が十分に抑制的な水準に必要なだけ長く定められることを確実にする」との表現で、当面の政策金利の据え置きを示唆しています。実際、ラガルド総裁は記者会見で、理事会のコンセンサスとして利下げの議論は時期尚早であり、インフレ目標の達成への確信を持つためにはインフレ率の低下がもっと進まなければならないと述べました。

一方で、今後の金融政策はデータ次第との方針を繰り返すなか、基調的なインフレ率は低下し続けている、賃金の伸び率は低下し始めている、労働コストの増大を利益率の低下で吸収している、長期のインフレ期待は2%近辺にあるなど、データが利下げを正当化する方向にあることを多々指摘しました。また、ラガルド総裁は今月開催されたダボス会議で今夏の利下げの可能性を示唆しましたが、その見解は不変とも発言しました。これらを受けて、市場は4月の利下げ開始をほぼ織り込み、ユーロ圏の債券利回りは低下、株価は上昇、ユーロは対米ドルで下落しました。なお、当社は6月の利下げ開始を予想しています。

ユーロ圏の消費者物価指数

(前年同月比、%) (2010年1月～2023年12月)



※コアは食品・エネルギー・アルコール・タバコを除く系列

(出所) LSEG

ユーロ圏の金利と為替

(%) (2020年初～2024年1月25日) (米ドル/ユーロ)



※中銀預金金利は発表日ベース

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント